

## サービス連携プラットフォームにおける ebXML 連携機能の検討

5 T-5

畑 恵介, 村山 隆彦

NTT 情報流通プラットフォーム研究所

## 1. はじめに

現在, インターネット上では, さまざまなサービスが提供され, 電子商取引が行われている. 経済産業省の e-Japan 重点計画<sup>[1]</sup>では, 2003 年には, 国内の電子商取引の市場規模が 73 兆円を上回り, おおむね半数程度の中小企業が, インターネットを利用して電子商取引に参加することが目標とされている. このため, 今後, 中小企業のような小規模事業者の電子商取引への参加が増加することが考えられる. しかし, 小規模な事業者が出店するためには, コストが低く, 容易に参入できる仕組みが必要になる<sup>[2]</sup>.

また, 電子商取引の分野では, XML の利用が広まっている. XML を利用することにより, 柔軟にデータの記述ができる. しかし, 多くの企業間で電子商取引を行うためには, 通信方式や, データ形式を標準化する必要がある. このための国際標準化委員会として, ebXML イニシアチブ<sup>[3]</sup>では, XML をベースにした電子商取引のためのフレームワークの標準化を行っている.

本研究では, インターネット上のさまざまなサービスを柔軟に組み合わせ, 経済的な連携サービスの構築を可能にするためのプラットフォームである, サービス連携プラットフォーム<sup>[4]</sup>に, ebXML 連携機能を検討した結果について述べる.

## 2. 背景および問題点

現在, 事業者がインターネット上で出店する

ためには, 主に次のような点に関して, 検討および作業を行う必要がある.

- (1) 提供するサービスの設計
- (2) 販売する商品の仕入れ
- (3) 販売システムの構築
- (4) 配送手段の手配
- (5) 決済手段の手配

しかし, 小規模な事業者の場合, (3)~(5)に関しての専門的な知識が不足している場合が多く, また, 高額な投資が困難なため, これらの要因が参入の障壁になっていると考えられる. 従って, 小規模事業者の参入を支援するためには, この部分にかかるコストを, できるだけ低くする仕組みを提供する必要がある.

その 1 つの方法として, 既存サービスを連携させて, 新しいサービスを提供するためのシステムを構築する方法がある. 複数のサービスを連携させるためには, サービスを柔軟に組み合わせることができる仕組みが必要なる.

また, 商品の仕入れを電子商取引で行いたい場合, 仕入先企業と標準の通信方式や標準のデータ形式を用いて通信する必要がある. しかし, このような標準に準拠したシステムを構築するためには, 標準に関する専門的な知識が必要になる.

## 3. サービス連携プラットフォーム

サービス連携プラットフォームは, インターネット上のさまざまなサービスを柔軟に組み合わせ, 経済的な連携サービスの構築を可能にするためのプラットフォームである. サービス連携プラットフォームの主な構成要素は次のようなものがある.

・ Web コンポーネント連携

Java コンポーネントを利用することにより, Web サービス構築を容易化する.

・ プロセス連携

プロセスモデルを XML でシナリオとして定義

A study of an ebXML connection function for Service Integration Platform

Keisuke HATA, Takahiko MURAYAMA

NTT Information Sharing Laboratories

3-9-11 Midori-cho Musashino-shi, Tokyo 180-8585, Japan

